

(2) 九島の1日

○闘牛場ロング

06 宇和島と言えば闘牛。

○見る人UP

年4回の定期的な大会に人々は熱狂します。

○闘牛UP

○宇和島俯瞰

07 愛媛県南部の中心、宇和島市。
人口およそ8万2000人の都市です。

○市街から九島へ

08 その沖合、およそ5キロに九島があります。
島の面積はおよそ3・4平方キロメートル
東京ドーム3個分の大きさです。

○港の移動

09 九島には、蛤はまぐり、百之浦ひゃくのうら、本九島ほんくしまと
三つの港があります。
島全体でおよそ400世帯、
1000人が生活しています。
九島と宇和島は一日往復9便の
フェリーで結ばれています。

○朝の九島

10 九島の朝。

○停泊中の船

11 午前5時、
本九島に停泊しているフェリー、
「第八くしま」が目覚めます。

<p>○船長が乗船</p> <p>○操舵室の船長</p> <p>○発着場に着く</p> <p>○人が乗り込む</p> <p>○1便が岸壁を離れる</p> <p>○宇和島へ向かう</p> <p>○宇和島に到着</p> <p>○下船の人々</p> <p>○九島へ戻る</p> <p>○港に入る船</p> <p>○本九島で乗る人々</p> <p>○百之浦で乗る人々</p> <p>○宇和島へ向かう船</p>	<p>12 停泊場所から岸壁へ向かいます。</p> <p>13 このフェリーを運航しているのは、JAえひめ南の子会社・えひめ南汽船です。九島農協が、昭和27年から運航していた事業を、平成10年に引き継ぎ、今日に至っています。</p> <p>14 午前6時、第1便が本九島を出発。</p> <p>15 途中、百ノ浦、蛤を経由して宇和島へ向かいます。</p> <p>16 午前6時30分、宇和島に到着。</p> <p>17 朝は大忙しで宇和島で、乗客を降ろすと、急いで九島に戻ります。</p> <p>18 第2便は本九島発午前7時、通勤、通学の人々が主に利用します。</p> <p>19 第八くしまは平成3年からもう20年以上、この航路を走っています。建造されてからは、33年もたっているそうです。</p>
--	---

<p>○赤松常務インタビュー</p> <p>○操舵中の船長</p> <p>○百之浦に到着</p> <p>○荷物を下ろすリヤカー</p> <p>○切符売り場に下ろす</p> <p>○アナウンスする女性</p> <p>○荷物の受け取りリヤカー</p> <p>○行商の人が来る</p> <p>○行商の様子</p>	<p>赤松常務「やはり船が古いので日常の点検がどうしても必要になります。そういうことで1年間に2回ドックにあげまして、そのうち1回は検査なんですけども、のこりの1回は自主点検、修理というような位置づけをして、予防・修繕につとめています」</p> <p>山下船長「この船は私が今治の方までもらいうけに行き、それで宇和島の造船所で改造をして、それからの船ですから、もう家族みたいなものですね、第8くしまはもう。その前にも2ハイ3ハイおったんですけどもこの船は特にながいんですよ」</p> <p>20 百之浦着、午前9時42分、宇和島からの第3便。リヤカー一杯の大きな荷物が運ばれます。</p> <p>「よすみさん、小学校さん、贈り物が届いております」</p> <p>21 九島のライフラインとして、1日平均2トンの貨物を運んでいるそうです。</p> <p>22 行商の人がいました。近くにスーパーや商店街がない島の人々にとって、行商の人はとても頼りにされています。</p>
---	--

<p>○ゲートボールの人々</p> <p>○軒下で談笑の人々</p> <p>○民家の屋根と庭</p> <p>○夕方戻ってくる船</p> <p>○人々が下りる</p> <p>○夕陽</p> <p>○沖へ向かう漁船</p> <p>○夜、最終便が到着</p> <p>○下りる人々</p> <p>○移動する船</p>	<p>23 午後のひと時、島にはゆっくりとした静かな時間が流れます。</p> <p>24 午後5時10分、宇和島からの第6便が本九島に帰ってきました。</p> <p>25 朝、仕事や学校のために島を出て行った人々が続々と戻ってきます。</p> <p>26 宇和海に夕陽が沈む頃、巻き網漁船が沖へ向かいます。</p> <p>27 午後9時、最終便が到着。</p> <p>28 人々を運び終えると、第八くしまは夜を過ぎすためいつもの停泊場所へ向かいます。</p>
--	---

(3) 二十四輩様

○本九島港ロング

29 毎年4月29日の朝、

宇和島から大勢の人々が
本九島に渡ってきます。

○船から降りる人々

30 この日は二十四輩様の日です。

○石仏を巡る・ぽんぽん岩

31 二十四輩様とは、

親鸞聖人の高弟だった24人のこと。
その弟子たちにちなんだ石仏が
九島のあちこち45か所に配置されて
います。

○遠見岩

32 石仏は100年以上前に作られた

といわれています。

○しゅうらくぐり岩

この日がそのご開帳の日、
島を訪れた人々は、
ハイキングしながら島の中を
巡り歩いて石仏を拝みます

○宇土の崎

33 そして、お昼頃、島の裏側、
宇土の崎で休憩します。

昔は、島の人たちが、
ここに船を出し郷土料理で
巡礼の人々を歓待したそうです。